



● 姉妹都市提携の立役者 ～CIRと共にさらなる飛躍を～

—— 神奈川県平塚市市民部文化・交流課

はじめに

神奈川県ほぼ中央、相模平野の南部に位置し、JR東海道線で東京駅から約1時間、相模川を渡ると、そこが平塚市です。湘南の海と山に囲まれた四季を通じて温和な気候が特徴で、夏の訪れを告げる「湘南ひらつか七夕まつり」は毎年多くの人で賑わいます。また、サッカーやバスケットボール、ビーチバレーなど、プロの試合でも利用されるスポーツ施設を有しています。

カウナス市と姉妹都市を締結

本市は、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会におけるリトアニア共和国の事前キャンプ地となり、2016年にホストタウン、2019年に共生社会ホストタウンとして登録されました。以来、スポーツ、文化、教育などのさまざまな分野での交流を進めてきました。なかでも、リトアニア第二の都市である「カウナス市」とは、教育分野を中心に2017年から相互交流を続けています。

カウナス市は、国のほぼ中央に位置する人口約30万人の都市です。市の中心部にある旧市街の歴史的な街並



美しい街並みのカウナス市

みが有名で、第二次世界大戦中に「命のビザ」を発給した杉原千畝氏が領事代理として勤務していた日本領事館が置かれていた都市です。

平塚市とカウナス市は、これまでの相互交流の経過から、2023年11月25日に姉妹都市提携を結びました。

CIRの任用

本市では、市民の国際感覚と国際意識の向上を図るとともに、リトアニア共和国および同国の都市との国際交流活動を推進するため、2020年10月からリトアニア共和国出身のCIR（国際交流員）を任用しています。

現在は、姉妹都市であるカウナス市出身のジュギーテ・サウレCIRが本市の国際交流や多文化共生推進の一翼を担っています。大学時代に京都で留学生活を送り、香川県内の美術館に勤務した経験があるサウレCIRは、日本語、英語が堪能で日本の文化や生活習慣にも精通しており、名前の表記も日本人と同じ「ジュ



民族衣装を着たサウレCIR
ギーテ（姓）・サウレ（名）」としています。

友好関係のさらなる強化を見据え、交流を加速化させていた2022年に任用されたのがサウレCIRだったことは、私たちにとってとても心強いことでした。

リトアニア語と英語を駆使

本市のCIRは①市民の機運醸成、②市民との交流、③教育、④国際交流の4つを軸に日々活動しています。

主な業務の1つが、通訳・翻訳業務です。窓口におけ



カナス市とのミーティングで落合克宏市長の通訳を行う様子

る外国籍の市民への通訳はもちろんのこと、各種通知などの英文翻訳も行っています。

現在も続く教育交流では、市内の小中学校とカナス市内の学校がオンライン交流を行っています。サウレ CIR は毎回出席し、通訳を通じて子ども達のコミュニケーションのサポートを行っています。

また、前述のとおり 2023 年 11 月にカナス市で姉妹都市提携を結んだ際は、市長の渡航にサウレ CIR が同行しました。滞在中は、打合せや関係各所への訪問などハードなスケジュールが続きましたが、サウレ CIR は全行程の通訳を務めました。

さまざまな調整を続けてきたカナス市国際部とも、リトアニア語でやり取りができるサウレ CIR がいることで円滑なコミュニケーションが取れました。まさに、姉妹都市提携の立役者と言えます。

伝える魅力

ほかにも、自ら企画した事業も実施しています。市内



モダニズム建築についてプレゼンテーション



小学校でリトアニアに関するクイズを実施

の学校や公民館などに赴き、対象年齢に合わせてクイズや料理教室を実施し、リトアニアの魅力を伝えています。

2022 年度から毎年開催している PR イベント「リトアニアウィーク」では、知られざる同国の魅力を詳しく解説する講座を開いています。昨年度は、ユネスコ世界文化遺産に登録されたカナス市のモダニズム建築についてプレゼンテーションを行いました。参加者の中にはリピーターも多く、サウレ CIR の話を聞いて「リトアニアに行きたくなった」という方もいます。

末永く続く交流を

2017 年からさまざまなことに取り組み、相互交流を続けてきた結果としてカナス市と姉妹都市提携を締結することができました。姉妹都市としての関係はまだ始まったばかりですが、教育、文化、経済などさまざまな分野で今後も末永く交流が続いていくように、CIR と共に挑戦し、さらに発展をさせていきたいと思ひます。



パネル展示や本を使ってカナス市の魅力を紹介